

県 外 派 遣 報 告 書

審判員名	小山洋一	所 属	社会人連盟
大会名	第7回全日本社会人バスケットボール選手権大会		
期 間	2025年 2月8日(土) ~ 10日(月) (参加日: 2月8日~2月9日)		
会 場	熊本県熊本市: 熊本県立総合体育館・ナースパワーアリーナ(熊本市総合体育館・青年館)		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
1月28日	研修会	ZOOM 会議 参加者自宅他	
2月8日	1回戦	各会場	
2月9日	2回戦・3回戦	各会場	
2月10日	準決勝・決勝	熊本県立総合体育館	
審判会議、研修会 講義内容			
<p>●小田中 涼子 氏 『ベーシックメカニクス』</p> <p>・スプリント・・・セットアップポジションからレフェリングできるようにポジション間をスプリントする。</p> <p> トレイル: バックコートではボールとボールマンを追い越さずに、突発的なバイオレーション、8秒を確認できる様にプレーと適切な距離を保ってスプリントする。フロントコートではフリーのプレイヤーのプレーを予測してオープンアングルを確保し、ボールレベルに合わせてポジションアジャスト。</p> <p> センター: トランジションに対して、先行してアングルを確保できるようにスプリントする。</p> <p> リード: トランジションではコートにフェイスメントしながら(顔を向けて)スプリントする。</p> <p>・エッジ・・・リードのプライマリ。FUL (F: Foot, U: Up, L: Landing) の確認。顔と体でチェックイン。トレイルは0%にならない様にビッグピクチャーで。</p> <p>※基本的にはリードがエッジから下を見るが、プレーによってはリードが選ぶ。すぐくインテンシティの高いプレイヤーがペイント内にいる時やドライブしてきたプレイヤーのパス&クラッシュの可能性を踏まえて目を残す。何もなければエッジへ。必要であれば笛を入れる。迷うならエッジへ。(上田 篤拓 氏)</p> <p>・センターの積極性・・・オープンアングルでもプライマリ優先。ボールウォッチャーにならない。ディフェンスが完全にコントロールするまでレフェリング。</p> <p>・チェックインとチェックアウトのタイミング・・・ウィークサイドのセンターライン付近でのトラップディフェンスに対して、トレイルはボールレベルにステイ or ポジションアジャスト、リードがローテーションしていてもセンターがチェックインするまではステイ。</p> <p>・ホイッスルのタイミング・・・FIBA の方向性としてマージナルコンタクトをファウルとして取り上げることのないようにコンタクトの瞬間だけで捉えるのではなく、プレー全体、スタート~デベロップ~フィニッシュを分析し、そのコンタクトがRSBQにどこまで影響を与えたかを分析する。イリーガルコンタクトをノーファウルにするのではなく、ファウルはファウルでコンスタントに判定。マージナルコンタクトを十分に見極めることが重要。プレー全体を分析する上での目安としてホイッスルのタイミングを調整することにトライしていく。</p> <p> ペイシエントホイッスル: プライマリのタイミング。吹き急がず、分析し決断してから笛を吹く。</p> <p> ケイデンスホイッスル: セカンダリのタイミング。プライマリがノーコールの判断でも誰から見ても明らかなイリーガルコンタクトがあった場合、プライマリの判断を待って笛を吹く。憶測やリアクションでは吹かず微妙なものはプライマリを信頼。セカンダリであってもオープンアングル、確実にイリーガルコンタクトを確認できていた場合はゲームを救うためにもケイデンスで飛び込む準備をしていることも重要。</p> <p> クイックホイッスル: プライマリ、セカンダリがRSBQの影響を判断せずにコンタクトの瞬間で笛を鳴らす。簡単に笛を鳴らすことによりゲームが難しい方向に進まないようにクイックホイッスルを減らしていく。</p> <p> イミディエイトホイッスル: プライマリのタイミング。クイックホイッスルとタイミングがほぼ同じではあるが内容が異なる。UF や DQ、ゲーム終盤のタクティカルなファウル、やり返しが予測されるようなものはペイシエントせずに対応する。</p> <p>どのゲームも3人が共通のメカニクスを遂行することでクルーの安定感、精度の高い判定、より良いゲーム運営につながる。</p>			

●高野 晃平 氏 『ヘルプディフェンダー』

ベーシックなメカニクス、ヘルプディフェンダーのメカニクスも判定していくためのツール。

ディスカッションしながら映像を分析して理解を深めていく。

「誰が一番長くプレーを見ているのか」というヘルプディフェンダーのコンセプトがあるが、コンセプトを意識しすぎて吹けなかったら本末転倒なので、まずはベーシックにシンプルにオンザコートで示していく。

●千葉 美幸 氏 『プレーコーリング』

・トラベリング：ミートや突き出しの明らかなものを取り上げていく。どのようなときにトラベリングが起こるのか予測、準備していく。

・プロテクトシューター：どちらに責任があるのか見極めるためにポジションアジャスト。FUL の確認。怪我を防ぐ事は難しいが着地の際にファウルだったのか、ファウルじゃなかったのかは大事になってくる。キックアウトの見極め。

・ブロック or チャージ：相手に正対して両足がフロアについた LGP（リーガルガーディングポジション）をとれているか。インパクトがあるコンタクトがあった際は、どちらに責任があるのかで判定する。どちらも責任がなければノーコール。どちらの責任が決められないからブロッキングではなくて、どちらもイリーガルと判断できる場合は5 0 - 5 0 でブロッキング。ノーチャージセミサークルの確認。まずはレフリーディフェンスを意識。判定して Call or No Call にするかが大切。パス&クラッシュではパスの行き先を目で追わずにプレーのスタート～フィニッシュまで確認。判定が割れるケースがあるが割れない状況づくり。プライマリの確認、ホイッスルのタイミング、コール後のシグナル。

・スクリーンプレイ：オフェンス・ディフェンス一組だけでなくその次の二組目のプレーがどこから来るのか、いつから始まるのか早めに捉えておくことでリーガルかイリーガルの判定につながる。

・AOS：どこでギャザーしたのか見極める。ギャザーとコンタクトがほぼ同時は AOS。デリバリーは周囲に伝わるようにわかりやすく。

・イリーガルシリンダー：シリンダーは DF、OF のどちらにもある。

・UF C3：慌てて判定せず DF がどうなのか確認する。

どの大会、カテゴリーでも普段からしっかり取り上げる。みんなが同じ様に判定していく為にプレーコーリングを理解していく。

●小田中 涼子 氏 『コミュニケーション』

円滑な運営の為にコート内で用いられるツールの一つとしてマニュアルがある。プレーヤー、コーチだけではなく、相手レフリー、TO との意思伝達やミスコミュニケーションをなくすためにも正しいシグナルを用いる。

相手とのコミュニケーションをとる際は「ショート&クリア」、「相手の主張を否定しない」がポイントになる。どうすれば納得してくれるのか、納得までいなくても理解してもらえるようになるのか考え言語化していく。

担当試合①

期 日	2月8日（土） 女子1回戦
対戦カード	ASA（近畿5位：大阪府）vs ひらまつ病院（九州1位：佐賀県）
ク ル ー	CC：岩尾 圭治 氏（熊本県） U1：今 正之 氏（青森県） U2：小山 洋一（埼玉県）
ミーティング内容	審判主任：仲間 芳幸 氏（沖縄県）

▶ゲーム前の PGC

ひらまつ病院はブロック大会での映像を見て、インサイドの外国人選手を中心としたチームでリバウンドや得点に絡んでくるシーンが多かった。ASA は映像が無かったが、インサイドに外国人選手と同じくらいの身長の手がいたため、インサイドの守り方をしっかりと確認できるようにベーシックなメカニクスをしていく。気づいたことがあれば常に共有していく。ひらまつ病院が突発的にダブルチームを仕掛けることがブロック大会であったので、センターサイドのセンターライン付近でタイトな DF の時はしっかりとセンターが見に行き、対応してローテーションをしていこうと話をしてゲームに臨みました。

▶ゲーム後のミーティング

PGC で話していたインサイドの守り方やセンターライン付近でのタイトな守りに対して積極的に足を運び、リバウンド、トラベリング、3秒バイオレーションなど3人が共通したメカニクスを行うことで判定すべき人がちゃんと判定していた。センターのレフリーが表と裏の関係を理解し、インサイドのプレイヤーのターンに対しての手のかかりを判定できたことによりとてもゲームとして締まった。

個人として、ヘルプディフェンダーのケースでトレイルからケイデンスで鳴らすことができなかった場面や、ペイシエントできずに鳴らしてしまった場面があった。もっと我慢強くプレーを見られるように意識して取り組んでいきたい。

また、選手がオフボール倒れるケースが何度かあったが点でしか捉えられていなかった為、自分のアングルや位置、距離を確認し直し、捕まえられる選手を増やさなければいけないと感じた。

担当試合②

期 日	2月9日(日) 男子2回戦
対戦カード	籠(東海1位:三重県) vs Simon Tokyo(関東3位:東京都)
ク ル ー	CC:岩田 友幸 氏(岡山県) U1:小山 洋一(埼玉県) U2:速水 蘭磨 氏(奈良県)
ミーティング内容	審判主任:柿原 実 氏(福岡県)

▶ゲーム前の PGC

籠の方が経験値や力としては1枚上手だろうという中で、Simo Tokyo がどのように戦ってくるのか危機感は持ち合わせて判定していく。サイズもあり、3Pシュートもあるためプロテクトシューターはしっかりと見極める。タフにゲームを進めていく中で悪いものはしっかり切っていく。

▶ゲーム後のミーティング

序盤からお互い3Pシュートを打つ中でしっかりとプロテクトシューターを確認できていた。お互いがタフにプレーしていく中でシングルコールも多く、鳴らすべき人が鳴らしている印象だった。3Qに白がスティールから速攻につながった場面でオフェンスが倒されパーソナルファウルを選択。直後の青の攻撃で同じようにオフェンスが倒されたケースで話をしてパーソナルファウルをコールしたのは良かった。プレゼンを工夫するとさらに良かった。このレベルのゲームでスムーズな運営ができていた。

個人的には判定したファウル吹いてすぐにレポートへ行ってしまう、なぜファウルなのか理解してもらえない状況があったので、しっかりと伝える意識を持つ。また POC をもっとこだわっていきたいと感じた。ずるいプレーや突発的に起きた自身の中で対応できていないプレーがまだまだあったので、より多くのゲームを見てインプットして、実際に判定していけるようにしていく。その時にゲームの状況、時計やプレイヤー、審判の位置など多くの情報をしっかりと把握してられるようにしたいと感じた。

全体の感想

はじめに、日本社会人バスケットボール連盟の皆様、PBA 派遣審判員の皆様、お世話になりました。熊本県バスケットボール協会の審判員・TO クルー、大会関係者の皆様には細部にわたる御配慮を頂き、大変お世話になりました。有難うございました。また今大会へ派遣して下さった埼玉県バスケットボール協会、日頃より活動を共にしている県内審判員の皆様へ、この場をお借りして御礼申し上げます。有難うございました。

私自身、全国大会派遣は初めてで緊張していた部分もありましたが、研修会や大会までにご一緒させていただいた方々がすぐく支えになっていたなと感じました。また、B級でこの場に立たせていただけたこと、全国大会で吹けたもの吹けなかったものありましたが戦っていた部分は大きな自信へつながった反面、ベーシックを徹底して判定に繋げなければならないと感じました。

今後も新たな課題は尽きないと思いますが、今大会の経験を活かし多くのことを吸収していきたいと思えます。

2年後は埼玉県で開催されます。県内の皆様のご協力が不可欠になるかと思えます。よろしく願い致します。そこでより良いライセンスで、多くのゲームを吹けるようにこれからも皆様には負けないう精進してまいりますのでご指導ご鞭撻の程お願いいたします。